

学校経営推進費 評価報告書（1年め）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立芦間高等学校
取り組む課題	授業改善への支援（生徒の学力の充実）
評価指標	1 授業アンケートと学校教育自己診断における授業理解度の向上 2 外部機関の客観的学力診断テストにおける学力の向上
計画名	生徒が活用する ICT で学力向上・授業改善 ～自分の色彩（いろ）で輝き、響きあう学びプロジェクト～

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1 新学習指導要領の理念を踏まえた、生徒の「確かな学力」の育成及び教員の授業力の向上 （1）「生徒の論理的思考力を伸ばす授業」「生徒が主体性を持って参加する授業」をめざした授業改善に取り組む。</p> <p>ア 「生徒の思考を促す授業」をキーワードに、相互見学授業や授業公開をより活性化して教員間で授業力を高め合い、また、授業アンケート結果を効果的に活用して、研究授業や研修等に組織的に取り組み、主体的、対話的で深い学びの実現をめざす。※生徒向け学校教育自己診断（設問2, 3平均）における「授業理解度」（H29年度 62.9%、H30年度 58.0%、R1年度 56.3%）を令和4年度には75%以上にする。</p> <p>イ ICTの活用に取り組み、生徒の知識の定着を図るとともに生徒が課題意識を持ち自ら解決する姿勢を育てる。 ※ ICTを利用して授業を行う教員の割合令和4年度50%以上をめざす。（R1年度46%）</p>
事業目標	<p>本校は総合学科として多彩な選択科目を有すること、オープンネットに接続できるタブレット等を一定台数整備していることやコンピューター教室を3室持っていることなどの強みがある。教員がICTを活用した授業力の向上をはかることで、生徒が主体的にICTを活用し、協働し、高めあう等、生徒自らが選択した授業での学びを高めることをめざす。</p>
整備した 設備・物品	<p>プロジェクターとマグネットスクリーンを普通教室17教室に設置。 ※ プロジェクター：カシオ XJ-F211WN・書けるマグネットスクリーン：内田洋行 SM-70K・無線LANアダプター：カシオ YW-41） プロジェクターを共生推進教室に設置。 ※ EPSON EB-1785W</p>
取組みの 主担・実施者	<p>アクティブラーニング推進委員会 （各教科から1人。委員長は教頭。主体的・対話的で深い学びを研究・推進する委員会）</p>
本年度の 取組内容	<p>校内アクティブラーニング推進委員会が主導し、各教科が取り組むかたちで、全校導入した教育用SNS「edmodo」を生かす取組みの開発を進めた。edmodoを基盤にさまざまなオンライン学習ツールを組み合わせ、教員-生徒間、生徒-生徒間のICTを活用した双方向型授業が徐々に始められている。令和2年12月末に機器の設置が終了し、令和3年1月に機器使用法の校内研修を実施した。 新型コロナウイルス感染症対策として、3年生を送る会、予餞会、各種説明会等においてもプロジェクターを活用した。</p>

成果の検証方法 と評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ① 生徒向け学校教育自己診断（設問 2, 3 平均）における「授業理解度」を 60%以上 ② 2 年次外部機関の客観的学力診断テストにおける国数英学力レベルゾーン B 3 からの向上 ③ ICT を利用して授業を行う教員の割合 50%以上
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校教育自己診断における授業理解度は 56.3%で初年度目標の 60%には及ばなかったが、設備が整備された次年度には数値の向上に努めたい。……………（△） ② R 2 年度入学生は春に学力診断テストを実施し、レベルゾーンは B 3。R 3 年度春に 2 年次となった同学年の学力診断テスト結果で学力の伸びを確認する。……………（－） ③ ICT を授業で利用する教員の割合がすでに 50%以上になった。……………（○） <ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクターとマグネットスクリーンを普通教室 17 教室に設置するまでに時間を要し、完成が 12 月末になったため、全体での取組みは機器使用説明研修の開催にとどまった。 ・ 各教員は設置前から移動式のプロジェクターを用いて ICT を利用した授業を増やしており、次年度に活発に校内公開授業や研修につながる実践の蓄積が進んでいる。
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内アクティブラーニング推進委員会が主導して校内公開授業を促進し、教員-生徒間、生徒-生徒間の ICT を活用した双方向型授業を全教科で一般化させる。 ・ 一般化させた実践を ICT 活用の 3 側面である「Assistive（主体性）・Active（対話的）・Adaptive（個別化）」に分類し、芦間高校の ICT 活用モデルとしてまとめ、府下に幅広く公開する。 ・ 各教員が機器の使用に習熟し、ストレスなく授業で使用できるように、相互の研修に励む。

3. 事業費報告

今年度事業費総額	3,817,770	円
----------	------------------	---

積算内訳

* 決算科目（節）を明示し、節毎に積算内訳を記載すること。

積算内訳	科目（節）	番号	内訳	単価	数量	金額	
	1 報償費	1					
		2					
		3					
						小計	¥0
	2 旅費	1					
		2					
		3					
						小計	¥0
	3 消耗需用費	1					
2							
3							
					小計	¥0	
4 維持需用費	1						
	2						
	3						
					小計	¥0	
5 役務費	1						
	2						
	3						
					小計	¥0	
6 委託料	1						
	2						
	3						
					小計	¥0	
7 使用料 及び賃借料	1						
	2						
	3						
					小計	¥0	
8 備品購入費	1		プロジェクター整備 XJ-F211WN カシオ/書けるマグネットスクリーン SM-70K 内田洋行/無線LANアダプター カシオYW-41	¥216,700	14	¥3,033,800	
	2		同上	¥222,200	3	¥666,600	
	3		プロジェクター（EPSON EB-1785W）	¥117,370	1	¥117,370	
					小計	¥3,817,770	
9 工事請負費	1						
	2						
	3						
					小計	¥0	
10 負担金・補助 及び交付金	1						
	2						
	3						
					小計	¥0	
					合計	¥3,817,770	